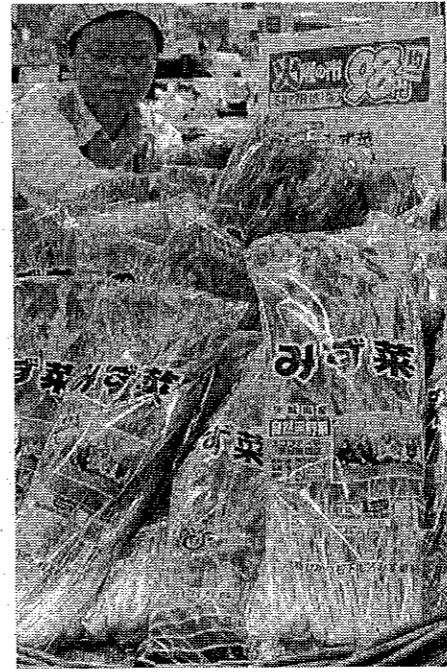


京野菜「水菜」バトル

茨城 安さ武器、出荷量1位

京野菜として有名な水菜の出荷量で、茨城県が首都圏の需要を背景に「本家」の京都府を抜き全国一の地位を確立している。市場をほぼ独占していた京都府は危機感を強め、京都産を高級感のあるブランド品として売り出し、差別化を図って対抗している。



水戸市のスーパーに並ぶ茨城県産の水菜

水菜は「京菜」とも呼ばれ、京都で400年以上前から栽培されてきたとされる。シャキシャキとした歯ごたえの良さなどから、サラダや鍋用として全国的に人気に。農林水産省によると、全国の産出額は1999年の約18億円から2006年には約84億円と急増した。人気の高まりで京都以外でも生産が進み、その影響

で京都の産出額は03年をピークに頭打ちに。04年には01年に生産を始めたばかりの茨城に全国一の座を明け渡した。06年の茨城の産出額は約37億円と京都(約16億円)の倍以上で、3位の埼玉(約14億円)も京都と2億円差に迫っている。JA全農いばらきによると、大手小売店の要望で水菜の栽培が始まり、急速に拡大。ハウレンソウなどを栽培していたノウハウを活用して大量生産を進めた。茨城県鉾田市で生産する高根沢好克さん(46)は「年間を通して出荷でき収入が安定しているため、ほかの作物からの転作が進んだ。流通量が増えるにつれ値段が上がり、今は利益ギリギリの価格で勝負している」と話す。

京都 伝統・ブランドで勝負

価格差2倍以上
京都府研究普及ブランド課の河合優広副課長は「京都産は固定客の需要があるが、水菜は最も出荷量が多い京野菜なので、他県産が増えるのは痛手」と語る。府は対抗策として農薬の量などの基準をクリアした京野菜に「京マーク」を張ってブランドをアピール。昨年5月には、パッケージを「京」の字が大きく印刷したデザインを使った「京みず菜」に変更した。大阪府中央卸売市場では07年、京都産と茨城産の水菜の取引量はほぼ同じだったが、1キログラムの値段はそれぞれ約70円と約350円。京都産は値崩れせず倍以上で、その高級感に対する人気は根強い。同市場の卸売業者は「京都産は料亭と直接契約をしていたりするので値段が高い。茨城産はそのほかの量販店などに流通している」と説明。「伝統」と「安さ」のイメージで互いにしのぎを削っている。

小林製薬 公取委「銀」

小林製薬(大阪市中央区)が「銀イオン」で除菌する「とうたつ」で販売した製品には実際の効果がなく、景品表示法違反(優良誤認)に当たるとして、公正取引委員会は12日、同社に排除命令を出した。公取委によると、問題の商品は芳香消臭剤「銀の消臭元トイレ用」と水洗トイレ用洗剤「銀のブルーレット」だけ。本体と詰め替え剤。同社が提出したデータ

乳がんのしこりこんな感触

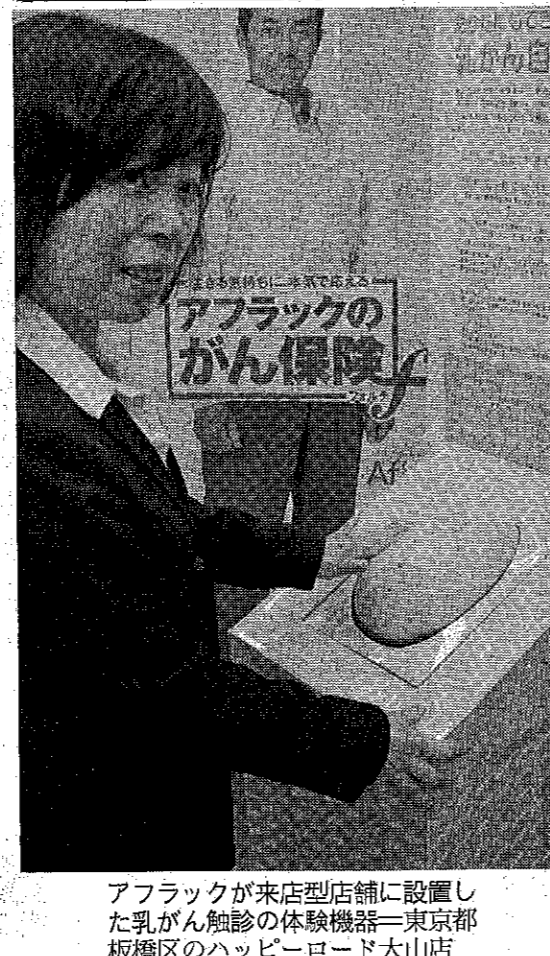
大手外資系のアメリカンファミリー生命保険(アフラック)は、乳がんの発見方法を体験できる機器「乳がん触診モデル」を全国の来店型店舗(全607店)に配置した。がん保険を主力商品とする同社が、がんを未然に防ぐために進めている取り組みの一環。これを機に、来店型店舗をがんに関する情報の発信基地にしていきたい(個人アソシエイツサポート部)としている。

昨年4月から同社が展開する来店型店舗「アフラックサービスショップ」への設置を進めていたが、先月末までに全607店への配置を完了した。

この機器を実際に触ると、乳がん特有の感触や発生部位を知ることができ、「乳がんは女性が最もかかりやすいがんだが、自分で触って発見できる唯一のがん。触診を勧める本などもたくさん出ているが自分で試さないとコツが分からない」と(同)、早期発見への一助を目指す。1台あたりの設置費用は約4万円と高めたが、既に

店舗での体験をきっかけに乳がんを早期発見した来店客も出ているという。

昨年4月に機器を設置したハッピーロード大山店(東京都板橋区)の安藤大介さんは、「がんになった契約者から『早期に発見できるように普段から気をつけておけばよかった』という声をよく聞く。店頭で気軽に体験してもらい、がんを真剣に考えるきっかけになれば」と来店客に利用を呼びかけているという。



空知・釧路へ進出を大阪でセミナー実施
中小企業基盤整備機構
北海道の中央西部に位置する空知地域と東部の釧路地域への企業立地を促すセミナーが12日、大分市淀川区の「新大阪イベントホール」ルミエールで開催され、関西の企業経営者約100人が参加した。主催は中小企業基盤整備機構。基調講演を行った東京農業大学の小泉武夫教授は、「おいしい食べ物と広大な北海道の魅力。空知は米

北核施設に日本製ポンプ輸出業者捜索

神奈川県警

北朝鮮の核関連施設で日本製の真空ポンプが使われていたことが分かり、神奈川県警は12日までに、製造元の「東京真空」(神奈川県相模原市)と輸出を代行した「ナカノ・コーポレーション」(東京都港区)の本社など関係先数カ所を外為法違反(無許可輸出)容疑で家宅捜索した。台湾経由で輸出されており、警察当局は台湾に捜査員を派遣して流出の経緯を調べてい

両社の捜索容疑は、核開発に使われるか使用される恐れのある真空ポンプを経済産業省の許可を得ずに輸出した疑い。国際原子力機関(IAEA)が2007年に行った査察で同ポンプの使用が判明したという。外為法は、核開発や生物化学兵器、ミサイルなど大量破壊兵器に使われる物品について、輸出入貿易管理令でリスト化し輸出時の許可を得る義務を課している。リストになくても、大量破壊兵器に使用される恐れがある物品は許可がなければ輸出できないとしている。

東京真空は取材に対し「北朝鮮の核施設に転用されているとは知らなかった」とし、ナカノ・コーポレーションは「(輸出許可が必要な製品には)該当しないとの証明書を東京真空からもらっており、違法輸出との認識はなかった」としている。

「専用育児グッズ所有」15%

電通調査

30代いまどきパパ
30代のいまどきパパは「ちょいまぱぱ」。15日の「父の日」を前に、電通・シズタイ育成委員会がまとめた調査で、最近のこんな父親像が明らかになった。調査によると、妻たちは夫を自分の父親と比べて「子育てに積極的」と評価。父親として子育てに取り組む姿勢などをともに電通が独自に作った「いまぱぱ」指標では、30代前半の妻で8%が夫を100点と採点、30代後半でも7.3%が夫に満点を付けた。一方、夫のうち「家族や子供を大切にしている男はカッコいい」と考